

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程2年	
科 目	臨床医学総論	
科 目 担 当 者	加藤 麦	
単 位 数 ・ 年 間 時 間 数	3単位・90時間	
使 用 教 科 書	日本理療科教員連盟教科書委員会編 生活と疾病Ⅱ臨床医学総論	
使 用 参 考 書	東洋療法学校協会編 臨床医学総論	
評 価 方 法	前期、後期ともに中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	この科目は診察と治療の概要を学びます。具体的には診察方法、診察所見、症状、検査、治療について学びます。この科目の知識は、患者の訴える症状や所見、検査結果から推論される疾患を導き出す能力となり、実際の臨床における診察から診断へ結びつけるための知識となります。国家試験だけでなく、臨床でも欠かせない知識となる重要な科目です。	
授 業 の 展 開	授業は教科書に沿って進めていきます。国家試験に向けての重要事項を中心に教授しますが、解剖学や生理学、臨床医学各論など他の科目との関連性についても説明します。また、単元毎に国家試験の過去問題を演習していきます。あはき臨床で必要な検査については実習形式でも行います。	
自己学習の進め方	授業内で教授した重要事項を中心に復習して下さい。	
授 業 内 容 (予 定)	合計	96時間
前 期 < 17 週 >	前期計	51
第1章 診察の概要		2
第2章 診察の方法		
第1節 医療面接		4
第2節 視診		15
第3節 打診		4
第4節 聴診		6
第5節 触診		10
第6節 測定法		8
中間試験		
期末試験		
講評		2
後 期 < 15 週 >	後期計	45
第2章 診察の方法		
第7節 神経系の診察		15
第8節 その他の身体機能の診察法		10
第3章 臨床検査		10
第4章 治療法		6
第5章 臨床心理		2
中間試験		
期末試験		
講評		2

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程3年	
科 目	リハビリテーション医学	
科 目 担 当 者	小原恵子	
単 位 数 ・ 年 間 時 間 数	2単位・60時間	
使 用 教 科 書	日本理療科教員連盟教科書委員会編「生活と疾病ⅠA・ⅠB」	
使 用 参 考 書		
評 価 方 法	前期・後期それぞれに中間試験と期末試験を行います。 その平均（小数点以下切捨て）を学期末評価とします。 学年末評価は前期・後期の学期末評価の平均（小数点以下切捨て）とします。 この学年末評価が60点以上であることが単位修得の要件です。	
科目の概要と学習の目的	超高齢化社会となった現在、リハビリテーション医学の対象は脳血管障害、脊髄損傷、脳性麻痺、切断、呼吸器、骨関節、神経などの疾患や身体機能障害の予防・回復なども含み扱う領域が広いです。 聞きなれない医学用語も多く出てきますが、医療従事者として必要なリハビリテーション医学の基礎的知識の修得を目指します。	
授 業 の 展 開	教科書に沿って進め、あはき師国家試験出題傾向に沿った授業を行います。前期は、リハビリテーションの概要からリハビリテーション治療まで、後期は基礎運動学と疾患別リハビリテーションを学習します。	
自己学習の進め方	授業中に提示された要点について理解を深める為、復習をしましょう。単元ごとに過去の国家試験問題を配布します。理解できないところがあれば、担当教官にご質問下さい。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 64時間	
前 期 < 18 週 >	前期計 36	
1 リハビリテーションの概要□	5	
2 障害の評価	10	
3 リハビリテーション治療	9	
4 基礎運動学	8	
5 疾患別リハビリテーション		
(1) 脳血管障害	4	
中間試験（筆記試験）		
期末試験（筆記試験）		
後 期 < 14 週 >	後期計 28	
5 疾患別リハビリテーション		
(1) 脳血管障害（つづき）	4	
(2) 脊髄損傷	4	
(3) 脳性麻痺	4	
(4) 切断	4	
(5) 呼吸器疾患	5	
(6) 骨・関節疾患	3	
(7) 神経疾患	4	
病院見学実習		
中間評価（筆記試験）		
期末試験（筆記試験）		

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅱ（マ実）	
科 目 担 当 者	小原恵子	
単 位 数 ・ 年 間 時 間 数	2単位・60時間	
使 用 教 科 書	盲学校教科書編纂委員会編 保健医療基礎実習	
使 用 参 考 書		
評 価 方 法	前期、後期ともに期末に実技試験を実施します。実技試験80%、通常の授業態度20%で評価します。 その成績を当該学期の評価点とします。学年末評価は前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	マッサージは、術者の手指を以って患者の皮膚に直接触れて行う手技です。滑りやすくするために粉（タルク）やオイルを使います。手技で強弱の刺激を生体に加え、変調を整え健康を保ち増進させる施術です。 マッサージの基本手技の修得を目標とします。	
授 業 の 展 開	冒頭、前回の復習後に、今回の実技内容についてデモを交えて説明します。それを踏まえて利用者間で練習している所を教官が個別に確認、教授します。授業の終了前に床面のタルクの除去等、実習室の軽い清掃を行います。	
自己学習の進め方	マッサージの手を作ることから始めます。施術部に施術者の手を密着させながら手技が出来るように練習をします。繰り返し練習することによって、手と指先の感覚が養われ、手がつくられていきます。 皮膚上から直接触れてマッサージを行う者として、手指のケアに努め、清潔保持に注意します。	
授 業 内 容 (予 定)	合計	62時間
前 期 < 16 週 >	前期計	32
I イントロダクション		3
・マッサージの意味と変遷		
・基本手技		
II 身体各部位のマッサージ		
1. 前腕		12
2. 下腿		12
3. 足部		4
期末試験		
見学実習		1
後 期 < 15 週 >	後期計	30
II 身体各部位のマッサージ（続き）		
4. 膝関節		6
5. 足関節		6
6. フットマッサージ		6
7. 肩関節		6
8. 顔面		6
期末試験		

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	はりきゅう基礎実習 I (はり実習)	
科 目 担 当 者	小原恵子	
単 位 数 ・ 年 間 時 間 数	3単位・90時間	
使 用 教 科 書	オリエンス研究会 鍼灸実技 基礎と臨床 改訂第4版	
使 用 参 考 書		
評 価 方 法	前期、後期ともに期末に実技試験を実施します。 実技試験80%、通常の授業態度20%で評価します。その成績を当該学期の評価点とします。 学年末評価は前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。 この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	施術者として、安全かつ衛生的に鍼施術を行う為の基礎的な知識・技能の習得、医療人としての基本的な態度を養うことを目標とします。 鍼施術を行う上での注意点や過誤・副作用・事故への対処法についても学習します。	
授 業 の 展 開	冒頭、前回の復習後に、今回の授業の内容と注意事項を説明します。 それを踏まえて利用者間で練習している所を教官が個別に確認、教授します。 反復練習に重点を置き、習熟度を確認しながら進めます。	
自己学習の進め方	皮膚上から直接触れて施術を行う者として、手指のケアに努め、清潔保持に注意します。鍼実技は、解剖学や経絡経穴概論に関連する学習内容も含まれていますので、積極的に当該科目の復習を行ってください。出血や感染症等、事故の危険があるため、授業時間以外は人体への刺鍼は行わないでください。練習方法は授業のときに提示します。人体への刺鍼練習をしたい場合には、担当教官が立ち会いますので、お声がけください。	
授 業 内 容 (予 定)	合計	93時間
前 期 < 16 週 >	前期計	48
1 衛生管理 (実習室の清掃、手洗い、消毒、器具の取扱い等)		4
2 リスク管理 (刺鍼用具、ベッド等)		3
3 鍼の術式 (片手挿管)		7
4 練習器への刺鍼		10
5 前消毒～後消毒		3
6 ステンレス鍼による身体各部位への刺鍼 (下肢・上肢・腰部)		7
7 銀鍼による身体各部位への刺鍼 (下肢・上肢・腰部)		5
8 見学実習		3
9 随時試験と講評		3
10 期末試験		
11 評価のフィードバック		3
後 期 < 15 週 >	後期計	45
12 ステンレス鍼による身体各部位への刺鍼 (背部、頭頸部、顔面部を加える)		15
13 銀鍼による身体各部位への刺鍼 (頸肩部、背部を加える)		12
14 現行17手技		12
15 随時試験と講評		3
16 期末試験		
17 評価のフィードバック		3

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程2年	
科 目	はりきゅう応用実習 I (臨床実習前試験等を含む)	
科目担当者	加藤 麦	
単位数・年間時間数	4単位・120時間	
使用教科書	オリエンス研究会 鍼灸実技 基礎と臨床	
使用参考書		
評価方法	前期・後期とも学期末試験(80%)と平常点(20%)で評価します。学期末試験は実技試験を実施し、平常点は出席状況と授業態度により評価します。前期と後期の平均点を学年末評価とします。なお、後期の実技試験は臨床実習前試験を含めた課題で実施します。	
科目の概要と学習の目的	この科目では、現代医学的な病態把握に基づく診察と鍼灸施術について、臨床実習に向けて最低限必要な知識と技術を学びます。また、鍼通電療法や小児鍼、円皮鍼など応用的な鍼灸術を体験することで、患者の状況に合わせた施術ができる知識と技術を身につけます。	
授業の展開	鍼灸術を中心に行いますが、必要に応じて灸術も組み合わせて行います。なるべく施術する機会を多くしていきませんが、施術に必要な診察技術や患者対応なども重点的に行い、臨床の流れを意識した診察と施術を症状別に、あるいは症例を提示して行っていきます。	
自己学習の進め方	現代医学的な病態把握に基づく施術をするためには、解剖学、臨床医学総論・各論、経絡経穴概論の知識が必要です。これらの科目について復習をして下さい。	
授 業 内 容 (予 定)	合計	128時間
前 期 < 17 週 >	前期計	68
1. オリエンテーション		2
2. 基本刺鍼の復習		7
3. 身体各部への刺鍼(上肢、下肢、腰背部、頸肩部)		14
4. 鍼灸術による有害事象とリスク管理		4
5. 臨床実習前試験等(臨床入門)		6
6. タオルワーク		2
7. 体表観察		10
8. 主な症状に対する診察と施術		
(1) 腰痛		20
9. 所外施術所見学		1
10. 期末試験		
11. 講評		2
後 期 < 15 週 >	後期計	60
1. 主な症状に対する診察と施術		
(2) 頸肩こり		8
(3) 頸肩腕痛		6
(4) 膝痛(下肢痛を含む)		8
(5) 肩関節痛		4
(6) 肘関節痛		2
(7) 神経痛・神経麻痺		8
2. 臨床実習前試験等(現代医学的臨床推論)		11
3. 特殊鍼法		7
4. 物理療法		3
5. 所内臨床実習見学		1
6. 期末試験		
7. 講評		2

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程2年	
科 目	はりきゅう応用実習Ⅱ（臨床実習前試験等を含む）	
科目担当者	加藤 麦	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
使用教科書	オリエンス研究会 鍼灸実技 基礎と臨床	
使用参考書		
評価方法	前期・後期とも学期末試験（80％）と平常点（20％）で評価します。学期末試験は実技試験を実施し、平常点は出席状況と授業態度により評価します。前期と後期の平均点を学年末評価とします。なお、後期の実技試験は臨床実習前試験を含めた課題で実施します。	
科目の概要と学習の目的	この科目では、東洋医学的な病態把握に基づく診察と鍼灸施術について、臨床実習に向けて最低限必要な知識と技術を学びます。特に脈診と腹診、原穴・俞穴・募穴診などの東洋医学的診察から中医学的弁証論治と経絡治療の基礎について学びます。	
授業の展開	灸施術を中心にしますが、必要に応じて鍼施術も組み合わせて行います。なるべく施術する機会を多くしていきませんが、施術に必要な診察技術や患者対応なども重点的に行い、臨床の流れを意識した診察と施術を症状別に、あるいは症例を提示して行っていきます。	
自己学習の進め方	東洋医学的な病態把握に基づく施術をするためには、東洋医学概論と経絡経穴概論の知識が必要です。これらの科目について復習をして下さい。	
授 業 内 容	(予 定)	合計 64時間
前 期	< 17 週 >	前期計 34
1. オリエンテーション		2
2. 基本鍼灸の復習		6
3. 背部俞穴の取穴と灸		8
4. 東洋医学的診察と施術の概要		4
5. 脈状診		6
6. 腹診		6
7. 期末試験		
8. 講評		2
後 期	< 15 週 >	後期計 30
1. 俞募穴、原穴治療		6
2. 比較脈診		6
3. 基本4証（肝虚、脾虚、肺虚、腎虚）の取穴と刺鍼		6
4. 臨床実習前試験等（臨床推論による弁証論治（婦人科、運動器、消化器、呼吸器））		8
5. 所内臨床実習見学		2
6. 期末試験		
7. 講評		2

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程3年
科 目	はりきゅう臨床実習Ⅱ
科 目 担 当 者	加藤麦・佐藤浩輔
単位数・年間時間数	2単位・90時間
使 用 教 科 書	-
使 用 参 考 書	-
評 価 方 法	別途配布する『臨床実習評価ガイドライン』に基づき、2名の実習担当教官が学期末に評価を行い、その平均点（小数点以下切捨て）をもって期末評価とします。
科目の概要と学習の目的	チーム医療を実践できる医療関係者として必要な基本的心構えと態度（責任感、守秘義務、知識・技術の鍛練、礼儀作法（言葉づかい、身だしなみ、接遇態度など））を理解し、行動できる。教員の直接指導のもと、治療計画に応じた施術及び評価が適切に実施できる。鍼灸臨床の現場における衛生管理や、施術上の過誤・有害事象の防止及び生じた際の適切な対処について理解・実践ができる。総合的に治療院等の運営ができるようになることを目標とする授業です。
授 業 の 展 開	別途配布する『臨床実習マニュアル』、『カルテマニュアル』に従い臨床実習を行います。
自己学習の進め方	実習者は実習の当日までに担当する患者様のカルテを確認し、担当教官と相談しながら治療計画を立て、施術に必要な予習をしておいてください。
授 業 内 容 (予 定)	合計 96時間
前 期 < 18 週 >	前期計 54
オリエンテーション	6
模擬臨床	3
患者への施術	45
後 期 < 14 週 >	後期計 42
患者への施術	42

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。